

オーストラリアの初等音楽教育における強弱の学習内容と方法

—初等音楽教科書における基礎の内容に着目して—

井内志穂

(本講座大学院博士課程前期在学)

The Approach of Learning Dynamics in Elementary Music Textbooks in Australia

Shiho INOUCHI

Abstract

To study music elements, such as beat, rhythm, pitch, melody, harmony, etc., is a prominent part of music education. The purpose of this study was to clarify how elementary students in Australia learn dynamics, which is one of music elements, using a series of music textbooks *Music Room*.

Descriptions about learning dynamics were extracted from the textbooks and analyzed by categorized into 7 learning approaches. The findings were as follows: (a) The contents of leaning dynamics were placed mainly in the lower grades, with listening, performing, creating, and composing. (b) The contents of leaning dynamics developed in stages in the first half of a series of the textbooks, while repeated the same sort of leaning in the latter half. (c) In the lower grades, dynamics was learned separately from other musical elements. As grade advanced, dynamics was treated with other musical elements synthetically. The learning of the upper grades was take place on the basis of what learned before, not focusing only dynamics. (d) The final target was established to apply dynamics autonomously to practical music performance. Dynamic marks used in the textbooks were restricted to *f*, *p*, crescendo, decrescendo, and accent. A variety of musical activities with the restriction of dynamic marks made possible for students to acquire the ability to play music with dynamics.

1. 研究の背景と目的

オーストラリアでは1989年に、同国では初めてとなる学校教育に関する国家目標「ホバート宣言」が発表された。それに伴い音楽の学習領域は芸術科(The Arts)のなかに位置づけられ、1994年には国家レベルの芸術科ナショナル・カリキュラムである *A Statement on the Arts for Australian schools* と *The arts - a curriculum profile for Australian schools* が作成された。

オーストラリアでは、初等・中等教育段階の教育に関しては各州・直轄区の教育省が管轄している。そのため、各州・直轄区はナショナル・カリキュラムを指針としながら、独自のカリキュラムを作成している。さらに各州・直轄区によって作られたカリキュラムをもとにそれぞれの学校が教育課程を設定し、教師が実際の授業を作るため、授業の内容や質は教師の力量に任されると言っても過言ではないだろう。

我が国では、小学校において平成23年度より新しい音楽科教科書が使用されている。教科書によっては各学習内容に基礎の諸要素が記されるようになり、教師が指導の際に、以前よりも児童が身につけるべき基礎の内容を意識しながら授業を行うことができるようになった。しかし、教科書に示された諸要素だけが教授することのできる基礎的な内容とは限らないであろう。また、基礎そのものの捉え方もさまざまであろう。児童に身につけさせたい力は何なのか、基礎とは何なのかを今後も熟考し意識しながら指導を行っていくことが必要である。我が国では現在、平成20年改訂の音楽科学習指導要領に共通事項として

基礎の内容が示されたことにともない、基礎に学習の重点が置かれる傾向にある。したがって、諸外国の音楽教育における基礎の扱いを見ることによって、我が国の音楽科教育のあり方を客観的に検討する視座を形成することができると思われる。

オーストラリアには、身につけさせるべき力が明確に示され、学習で獲得した能力を測るための評価が記された、指導書の役割をあわせもつ教科書がある。このような教科書（指導書）は、授業の内容や質が教師の力量に左右されるオーストラリア国家の教師にとって授業を構成する際の助けとなるものであり、またこのような教科書レベルの指針によって教育の質の均等が保障されうるともいえる。

オーストラリアの音楽教育に関する研究は、我が国の学習指導要領に相当するカリキュラムを扱ったものと音楽教科書を扱ったものに分類される。まず、カリキュラムを扱った研究としては、唐崎（2011）が挙げられる。唐崎は、ナショナル・カリキュラムと各州（準州を含む）のカリキュラムの内容の比較検討を行い、各州によって音楽分野の記述に関する専門性が異なること、音楽・芸術の学習は、思考力や表現力を総合的に活用し主体的に行うことで理解を得ることができるものであることを結論づけている。次に、オーストラリアの音楽教科書を扱った研究としては、四橋（2003）が挙げられる。四橋は、ナショナル・カリキュラムの内容と教科書 *A Class Act* の内容を検討し、ナショナル・カリキュラムと教科書の内容には関連性があることを結論づけている。教科書の内容について詳細に検討しているが、基礎の内容に関する系統性についてはあまり詳しくは述べられていない。また、対象とした教科書は小学校4年生までの段階に該当するものであり、多くの州で初等教育段階とされている小学校6ないし7年生までを網羅していない。

基礎の内容に関する研究として、井内（2011）がある。基礎の内容を構成する音楽の諸要素のうち、音高・旋律・和声（Pitch / Melody / Harmony）に焦点を当てて分析した結果、これらの能力を身につけさせるために、演奏による学習を中心とし、聴取、創作、作曲などの複数の学習方法を組み合わせることで、認識および表現に関する到達目標（評価）を達成することができるようになってきていることが明らかになっている。

本研究では、オーストラリアの初等音楽教科書から基礎の役割を明らかにすることを目的とする。そのために、多くの州で義務教育段階の最も土台の部分に位置づけられる初等段階に焦点を当て、音楽の諸要素のうち強弱（Dynamics）に着目して系統的に音楽教科書の分析を行う。

2. 音楽教科書 *Music Room*

(1) *Music Room* の概説

本研究では、小学校芸術科（音楽）の学習を対象にした教科書（指導書）として、Bushfire Press 社 *Music Room* シリーズを扱う。本教科書は、入門（beginning primary）、初級（lower primary）、中級（middle primary）、上級（upper primary）の4つの発達段階に分けられた、全7巻から構成されている¹⁾。オーストラリアの教科書に国家検定はないが、この教科書は北部準州を除くオーストラリア全州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州、南オーストラリア州、西オーストラリア州、タスマニア州）の各顧問に承認されており、公に認められたものといえる。

Music Room は、入門～中級、および上級第7巻に関しては4つのユニットと8つのレッスン（ただしユニット4のみ6つのレッスン）から構成され、上級第6巻のみ、8つのモジュールと4つのレッスン（ただしモジュール8のみ2つのレッスン）から構成されている。

Music Room における段階別の活動内容は表1のとおりである。入門では聴取（Listening）、歌唱（Singing）、動作（Moving）、演奏（Playing）、創作（Creating）の各活動が行われる。これらの活動に初級で作曲（Composing）が加わり、中級で読み書き（Writing, Reading）の活動が加わり、学習が進められる。

表1 活動内容

入門	聴取	歌唱	動作	演奏	創作		
初級	聴取	歌唱	動作	演奏	創作	作曲	
中級	聴取	歌唱	動作	演奏	創作	作曲・記譜	読譜
上級	聴取	歌唱	動作	演奏	創作	作曲・記譜	読譜

（*Music Room* をもとに筆者作成）

(2) Music Room における基礎の扱い

Music Room では、音楽の諸要素 (Musical Elements)、芸術の実践 (Art Practice)、音楽への反応 (Responding to the Arts) の3点において音楽の能力をつけさせようとしている。そのうち身につけさせるべき音楽の諸要素は表2のとおりである。入門では拍子 (Beat)、音高 (Pitch)、強弱 (Dynamics)、テンポ (Tempo) の4つの要素に関わる能力を身につけさせることとなっている。これに初級でリズム (Rhythm)、旋律 (Melody)、形式 (Form)、音色 (Tone Colour)、テクスチャ (Texture)、様式 (Style) の要素に関わる能力を、中級でさらに和声 (Harmony) の能力を加えて身につけさせることとなっている。つまり初等教育段階で身につけさせるべき音楽の諸要素に関わる能力は、拍子、リズム、音高、旋律、和声、形式、強弱、テンポ、音色、テクスチャ、様式の11の観点で構成されている。

表2 身につけさせるべき音楽の諸要素

入門	拍子	音高			強弱	テンポ			
初級	拍子／リズム	音高／旋律		形式	強弱	テンポ	音色	テクスチャ	様式 ²⁾
中級	拍子／リズム	音高／旋律	和声	形式	強弱	テンポ	音色	テクスチャ	様式
上級	拍子／リズム	音高／旋律	和声	形式	強弱	テンポ	音色	テクスチャ	様式

(Music Room をもとに筆者作成)

(3) 強弱に関する到達目標

Music Room の第1巻から第7巻までにおける強弱に関する到達目標を以下に記す。

入門 (第1巻)

- ・音楽と環境音における大きい・静かを認識する
- ・声と楽器を使用して大きい・静かを示す
- ・大きい・静かを表す記号を理解する
- ・「大きい」「静か」という用語を理解し、使用する

初級 (第2巻)

- ・音楽におけるだんだん大きく・だんだん静かにを認識する
- ・声と楽器を使用してだんだん大きく・だんだん静かにを示す
- ・だんだん大きく・だんだん静かにを表す記号を理解する
- ・「だんだん大きく」「だんだん静かに」という用語を理解し、使用する

初級 (第3巻)

- ・作曲や演奏において強弱変化を使用する
- ・表現記号 f , p , $<$ $>$ を認識し使用する

中級 (第4巻)

- ・作曲や演奏において、強弱変化 (だんだん大きく／静かに) を使用する
- ・強弱変化を示す合図を創る

中級 (第5巻)

- ・作曲・演奏において、強弱変化 (だんだん大きく／静かに) を使用する

上級 (第6巻)

- ・演奏において強弱変化の使用を選択する

上級 (第7巻)

- ・演奏において強弱変化の使用を選択する

- ・リズムパターンにおけるアクセントの使用を認識する
- ・音楽用語「クレッシェンド」「デクレッシェンド」を理解し使用する

(4) 教科書の内容

教科書の内容を、学習方法別に検討する。全学習事項の中から、強弱の能力を身につけさせることを目的とした学習を抽出し、各巻ごとに、聴取、歌唱、動作、演奏、創作、作曲・記譜、読譜、の7つの学習方法に分類し、その数を表したものが表3である。

表3 強弱の学習方法

		聴取	歌唱	動作	演奏	創作	作曲・記譜	読譜	合計
入門	第1巻	14	5	2	7	2	0	0	30
初級	第2巻	3	6	0	8	0	1	0	18
	第3巻	10	1	0	9	4	3	0	27
中級	第4巻	4	0	0	1	4	5	0	14
	第5巻	5	0	2	2	7	1	1	18
上級	第6巻	1	0	0	0	0	1	0	2
	第7巻	2	1	0	2	2	0	0	7
合計		39	13	4	29	19	11	1	116

*「演奏」は器楽による演奏、および指揮を指す。

網かけは各巻において最も数値の高い活動を示す。強弱を身につけさせるための学習としては、聴取によるものが最も多くなっている。

①聴取による学習

聴取による学習は一貫して、音量に対して動きで反応する活動を中心に進められる。聴き取った音の大きさを、体を使って表現するもの、教師の出した楽器の音量と同じ大きさの音を、楽器を用いてまねして出すもの、聴き取った音量にふさわしいイラストを選ぶものなどのさまざまな活動が、入門段階から行われる。初級段階後半と中級段階前半では、演奏の録音を聴いて、楽譜の示す強弱のとおり演奏できたか、素材によって音量がどう変化するか、どのような素材を用いれば自分の思う音量の音を創ることができるかなどについて、討論する活動が際立って多く見られるようになる。また、鳥をモチーフとした曲の作曲やドローンの創作、演奏を行い、音量バランスについて振り返ったり、グループごとに作曲した曲の工夫を、強弱を観点として比較したりするためにも、聴取の活動を行う。中級段階後半からは新たに、音楽を聴いてどんな気分になるかを考え、その理由を、強弱をはじめとする音楽の諸要素に見いだす活動が行われる。また、聴取した音楽の印象を絵で表現し、再度音楽を聴きながら他者との表現の比較を行い、交流する活動が行われる。上級段階では、水に関する音を創作し、聴いて強弱をはじめとして音高や音価などの音楽の諸要素にもとづいて分類する活動が行われる。

②歌唱による学習

歌唱による学習は、主として入門段階と初級段階前半で行われる。強弱を示すような歌詞や物語の歌や、教科書に強弱が指示されたものがほとんどである。学年があがっても内容の難易度があがるといった傾向は見られず、それぞれの学年で似たような教材を用いて学習が行われている。

③動作による学習

動作による学習では、入門段階で、歌詞の内容に合わせて大きく足を踏み鳴らしたり、つま先でそっと歩いたりする活動が行われている。中級段階後半では、図形楽譜から強弱を読み取り、即興的にダンスを創作して動く活動が行われる。

④演奏による学習

演奏による学習は、入門段階では、非旋律打楽器を用いて、物語や歌詞の内容、先生の示すチャートや指示にふさわしい大きさの音を出す活動がほとんどである。初級段階後半では新たに、図形楽譜を演奏する活動が加わる。中級段階前半では4拍子の1拍目にアクセントを付けてタンゴの曲に合わせて演奏する活動が見られる。中級段階後半では図形楽譜を指揮する活動が加わる。上級段階後半では、既習内容が復習される。

⑤創作による学習

創作による学習は、入門段階では、指定された環境音を創る活動や、強弱を示すような歌詞を創作する活動が見られる。初級段階後半からは、8枚の異なるイラストに対して旋律打楽器や非旋律打楽器、声を用いて効果音を創作する活動のほか、さまざまな素材を用いて音量などの異なる楽器（シェーカー）を制作し即興的に創作する活動が行われる。中級段階前半では、強弱に留意したオスティナートやドローンを作成したり、指揮者が強弱を示すサインを開発したりする活動が見られる。中級段階後半では、スライドや映画にふさわしい音や動きを考える活動が行われる。

⑥作曲・記譜による学習

作曲による学習では、初級段階においては非旋律打楽器や旋律打楽器を用いて音量変化のある曲を作る活動や、強弱を工夫して既存曲から独自の曲を作る活動が行われている。中級段階からは、詩にふさわしい音量の伴奏を、演奏技法や楽器を考えながら作ったり、また、場面の異なる一連の絵を見て、場面場面の状況に適した強弱を用いて作曲したりするなど、具体的な状況に応じて根拠をもった音量や強弱の工夫が求められる、初級段階よりも少し高度な作曲の活動が行われる。

記譜による学習は既習の図形楽譜を参考に、楽器で演奏するための図形楽譜を記すものである。この記譜による学習は、初級段階後半にのみ見られる。

⑦読譜による学習

読譜による学習は、強弱を示した図形楽譜を読み取って演奏する活動であり、中級段階後半に見られる。チャイコフスキー作曲「くるみわり人形」より「ロシアの踊り」が題材として用いられ、強弱に関しては、アクセントとクレッシェンドを読み取ることとなっている。

3. 考察

図1は *Music Room* 全巻の強弱に関する学習内容をまとめたものである。強弱の能力を獲得させることを目的とした学習方法を検討した結果、以下の4点を特徴として挙げることができる。

1点目は、強弱の学習が、聴取、演奏、創作、作曲の活動を中心に進められ、学習は中級段階後半までに集中的に行われていることである。学習方法の数として最も多く挙げられた聴取の活動は、特に入門段階と初級段階で多くなっている。入門段階から初級段階にかけては強弱の学習全体の数が多くなっていることから、低学年のうちに環境音や楽器の音などのさまざまな種類の音や音楽を聴取するなかで強弱に反応する活動を行い、その経験を高学年で創作や作曲といった自身の創造的な音楽活動につなげているといえる。

2点目は、*Music Room* シリーズ全体の前半部分（第1巻から第4巻）は段階的に強弱の学習が行われ、学習内容に発展性がうかがえるが、後半部分は既習内容の定着を図った復習が中心となり、発展性がみられなくなることである（第5巻以降）。学習内容は前半部分の次のように発展している。第1巻で「大きい・静か」という概念を学習し、それを第2巻で *f*、*p* の用語と記号の認識につなげている。また、第2巻からは、「大きい・静か」に強弱変化を加えて「だんだん大きく・だんだん静かに」という概念を学習し、それを表現することによって漸次的な強弱記号 (<>) を認識する。そして、その後第4巻でアクセントの用語と記号を認識する。

このことに関連して3点目は、低学年では強弱に焦点をしばった学習が行われることが多いが、初級段階前半（第2巻）からは他のさまざまな要素と関連づけた学習が行われはじめ、中級段階後半（第5巻）

以降はほぼ、強弱のみの学習はなくなることである。具体的には、先にも挙げたとおり、音楽を聴いてどんな気分になるかを考え、その理由を強弱等の音楽の諸要素に見いだす活動（聴取による学習）、スライドに合った音楽の雰囲気表現するように強弱等の音楽の諸要素に留意して即興的に創作を行う活動（創作による学習）、強弱等の音楽の諸要素を考慮しながら「星の輝く夜の音楽を作ろう」というテーマで作曲を行う活動（作曲による学習）、などである。

4 点目は、*Music Room* では、強弱の学習の到達点が、自律的に実践のなかで強弱を使用できるようになることに向けられていることである。初級段階以降すべての段階をとおして、クレッシェンド、デクレッシェンドに関する学習が多く行われるが、音楽用語の理解は上級段階後半で行われており、それまでは「だんだん大きく・だんだん静かに」といった言葉や、伝統的な音楽記号である<>、図形等を用いて学習が進められ、強弱を表現することに重点が置かれている。また、扱われる強弱記号は *f, p*、クレッシェンド、デクレッシェンド、アクセントに限定されており、強弱記号を限定するなかでさまざまな活動を積み重ねることで、演奏の場面で実際に強弱を表現する能力を確実に身につかせようとしているといえる。

強弱	大きい・静か	だんだん大きく・だんだん静かに					
中心となる活動	聴取						
	演奏			創作・作曲			
巻数	第1巻	第2巻	第3巻	第4巻	第5巻	第6巻	第7巻
音楽用語理解		<i>f, p</i>		accent			crescendo, decrescendo
音楽記号理解		<i>f, p</i>	<>	>			

発展

図1 強弱に関する学習内容

このように、*Music Room* における強弱の学習構造は、実験的な活動によって強弱の物理的な音響現象を体験的に学習したことを基盤に、中・高学年で強弱を含めた音楽を構成する諸要素を統合的に知覚・認識し、音楽全体を理解させるものであるといえる。

註

- 1) 全7巻の構成は、第1巻が入門、第2・3巻が初級、第4・5巻が中級、第6・7巻が上級である。
- 2) ただし、Book2には様式の要素は含まれない。

引用・参考文献

- 唐崎裕子 (2011) 「オーストラリアの初等教育における芸術科カリキュラムに関する研究－音楽分野を中心に－」 広島大学大学院教育学研究科修士論文。
- 四橋美紗恵 (2007) 「オーストラリアの音楽教科書に関する一考察－ナショナル・カリキュラムとの関連性をとおして－」 広島大学教育学部音楽文化系コース卒業論文。
- 井内志穂 (2011) 「オーストラリアの音楽教科書における基礎の内容に関する研究」 中国四国教育学会『教育学研究紀要』第57巻, pp. 357-362.
- Fairbairn, R., Leehy, M., O'Mara, K. (2005). *Music Room Beginning Primary Level*, Bushfire Press.
- Fairbairn, R., Leehy, M., O'Mara, K. (2005). *Music Room Book2-Lower Primary*, Bushfire Press.
- Fairbairn, R., Leehy, M., O'Mara, K. (2006). *Music Room Book3-Lower Primary*, Bushfire Press.
- Fairbairn, R., Leehy, M., O'Mara, K. (2007). *Music Room Book4-Middle Primary*, Bushfire Press.
- Fairbairn, R., Leehy, M., O'Mara, K. (2008). *Music Room Book5-Middle Primary*, Bushfire Press.
- Fairbairn, R., Leehy, M., O'Mara, K. (2010). *Music Room Book6-Upper Primary*, Bushfire Press.
- Fairbairn, R., Leehy, M., O'Mara, K. (2011). *Music Room Book7-Upper Primary*, Bushfire Press.